

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有、実践している。	●		・年初式の社長訓示や予算策定の際、経営理念の共有を行っている。 ・会議室に経営理念を掲示することで社内浸透を図っている。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・朝礼時に法令遵守について上長より周知する他、アルコールチェックを徹底している。																16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・見積作成の際には、所属長・担当者のダブルチェックにより金額の妥当性を確認している。										10						16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・毎月開催しているSDGs委員会の中で実施したバリューチェーン分析を通じて、当社が社会・環境・経済にどのような影響を及ぼすか把握し、共有している。																16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・製造・販売等の権利購入の際は契約書にて知的財産に関する取り決めを行っている。								8.2 8.3	9							16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報については施錠できる場所やPC上にパスワードをかけて適切に管理するとともに、閲覧制限を設けている。 ・VPNを構築、セキュリティ対策を厳重に行っている。 ・情報漏洩した際の保険に加入している。 ・外部講師を招いた個人情報の勉強会を開催することにより、個人情報の適切な取り扱いについて社内浸透を図っている。															16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・コンクリート製品協同組合や九州ヒューム管協同組合・箱型擁壁協会をはじめとする各種団体に加入し、当社が与える影響について情報を収集するとともに、適切に対応している。															16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。		●	・協力会社とのコミュニケーションを大切にしており、物価上昇・賃金改定を鑑み協力会社に対し報奨金を支給する他、価格転嫁にも適切に対応している。					5			8		10		12	13	14	15	16	17
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。		●	・【予定】2025年6月までにBCPを策定の上、従業員にその内容を周知し、自然災害に備える。									9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●									8	9								17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		●		1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・就業規則に各種ハラスメントの禁止を定めている他、研修会を実施することにより社内浸透を図っている。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・勤務中の事故を防ぐため、安全靴・安全帯・ヘルメットの着用を徹底している。 ・新入社員研修の一環として安全講習を実施している。			3					8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・高卒・大卒間の賃金格差を是正することにより、雇用形態に関わらない同一労働同一賃金に沿った対応を行っている。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・【予定】2025年6月までにフレックスタイムを導入し、家庭と仕事の両立が図りやすい環境整備に取り組む。			3		5.5			8.5 8.8		10.3							
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・従業員の必要資格取得費用は会社が負担する他、社内外研修への積極的な参加を推進し、従業員に能力開発の機会を提供している。 ・【予定】2025年6月までに資格手当を支給する。				4	5.5			8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・健康診断(一部オプション含む)やインフルエンザ予防接種補助を行っている。 ・【予定】2025年6月までに、従業員の心身の健康維持を目的としてリフレッシュ休暇(特別休暇)を導入する。			3					8								17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・高齢者が活躍している。 ・女性営業職や外国人労働者の採用に注力しており、誰もが活躍できる環境整備に取り組んでいる。				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。		●	・取引先や同業他社とweb会議を積極的に行っている。			3					8	9.1		11	12					
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	・販売生産管理システムや財務管理システム、ドキュメント・ハンドリング・ソフトウェアの導入により業務効率化を図っている。 ・【予定】2025年6月までに、マンホール作図システムでのデータ共有化により更なる業務効率化を図る。								8	9.1		11	12					
	21	【ブライト企業】 ・ブライト企業に認定されている。		●	・【予定】2024年7月ブライト企業を申請し、認定取得する。			3	4				8	9			12					

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
																							
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・コンクリートくずを粉砕し、路盤材等として再利用している。 ・pH中和処理装置の導入により廃水を中和し排出している。 ・防塵対策として場内舗装化に取り組んでいる。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1			
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・リフトのEV化や社用車のハイブリッド化を行い、エネルギー使用量の削減に取り組んでいる。 ・二酸化炭素排出量算定システム「炭削くん」を活用し、自社のエネルギー使用量を把握している。							7.3						13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・積み合わせ・ルート便の活用により製品納入の効率化を図ることでCO ₂ 排出量削減に貢献している。 ・二酸化炭素排出量算定システム「炭削くん」を活用し、自社の二酸化炭素排出量を把握している。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15			
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・pH中和処理装置の導入により廃水を中和し排出している。						6.6								14	15			
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・コンクリートくずを粉砕し、路盤材等として再生利用している。 ・廃水処理装置の導入により、残コンを分級しセメント、砂利等の再利用を行っている。 ・PCやタブレットを活用し、請求書や給与明細の電子受取推進をはじめとするペーパーレス化を図っている。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・ヒューム管やマンホール製造により下水道施設整備に貢献している。 ・工場処理水の適切な管理により水質の保全に取り組んでいる。		2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5		14.1 14.2 14.3	15		17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・再生紙やグリーン購入を徹底している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	・フードドライブの回収箱に食料を積極的に持ち込むことで、食品ロスに貢献している。	1	2				6.4							12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●	・自社工場敷地の法面緑化や工場周辺に植栽を行うことで緑の創出に取り組んでいる。												11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●	・ボイラーの更新やリフトのEV化によるエネルギー効率化に取り組んでいる。							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4			11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・”伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●							6			9.4			11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●	・【予定】2025年6月までに植樹活動に参加する。						6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●														12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●	・従業員の出張時に公共交通機関を利用するよう促進している。									9.4			11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●	・SCOPE1、2、3(一部)のCO2排出量を把握し、それをもとに目標設定を行い、全社で削減に向けた取り組みを行っている。							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4			11.6 11.a	12.8	13				17.2

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・当社全ての工場がJISマーク認定を取得しており、社内規格・組織体制・製造基準に則った運営を行うことで、製品の安全性・品質向上に取り組んでいる。 ・製品納入の際、建設会社に対し商品の適切な取り扱いについて指導することで、工事中の安全面配慮を徹底している。			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・当社が販売するマンホールトイレは障がい者・高齢者が利用しやすいよう設計されている。 ・熊本市電軌道敷の舗装に使用されているコンクリート(RC板)は、平で車いす・ベビーカーが押しやすい設計となっており、あらゆる人の利便性向上に貢献している。									9.1	10	11.7					17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●	・熊本県産の砕石を使用している。		2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7					12.2	13.1		15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	・ヒューム管やマンホール製造により下水道施設整備に貢献している。 ・自然災害大国ともいわれる我が国において、災害時でも利用できるマンホールトイレの提供は社会課題解決に資する取り組みである。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●	・農林水産業の生産能力向上に向けた取り組みとして、マンホールを使用したアサリの養殖の実験に協賛した。 ・当社のコンクリート二次製品は豚舎のピットにも利用されており、衛生環境を保つことで農業の生産能力向上に貢献している。		2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・月1回工場周辺の美化活動や地域行事への積極的な参加を行っている。 ・半年毎に川の清掃ボランティアを実施している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・ハザードマップを確認して従業員に共有している。 ・飲料水・ヘルメット・軍手を常備している。				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	・【予定】2025年6月までに自社施設にAEDを設置する。	1.5		3	4							10.2	11.5		13.1		16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●	・箱型擁壁協会に加盟し、耐震・排水に優れた箱型擁壁の製造を行っている。 ・災害用のマンホールトイレを販売している。									9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	・外部講師を招いて定期的にSDGs委員会を開催しており、SDGsについて理解を深め、社内浸透を図っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	・地元小学校の社会科見学の受入を実施している。				4				8.6		10.2							17
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	・地元出身者を積極的に採用しており、2024年度の若者の地元出身者採用実績は2名である。				4.4				8.5 8.6									17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●			2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15	